

副代表幹事
経済連携委員会 委員長

藤森 義明

LIXIL グループ
取締役代表執行役社長兼 CEO



Contents

■特集 1	
2014年度 (第29回) 経済同友会 夏季セミナー(後編) 持続的成長と 革新的経営への挑戦	02
第1セッション概要	03
昼食会報告	08
視察・懇談会報告	09
■特集 2	
震災復興委員会 女川人材支援活動報告 「女川の人材交流プラットフォーム 事業」への支援	11
■Close-up 提言	
欧州・ロシア・アフリカ委員会 朝田 照男 委員長	17
急速に高まる日本への期待感に 全力で応えよ	
■Doyukai Report	
行政・制度改革委員会 第1回会合 「行政改革に関する これまでの取り組みと今後の課題」 稲田 朋美 氏 行政改革担当大臣 ※役職は開催時	20
全国経済同友会地方行財政改革推進会議 分権改革委員会 第2回会合 「道州制の展望と課題」 一 熊本県知事、熊本市長による講演」 蒲島 郁夫 氏 熊本県知事 幸山 政史 氏 熊本市長	21
JETプログラム参加者と企業経営者の懇談会	23
■Column	
巻頭言 藤森 義明 「バイリンガル国家という未来」	01
リレートーク 北野 泰男 「山高きがゆえに貴からず、 樹あるを以て貴しと為す」	19
私の思い出写真館 内山 英世 「忙中閑有」	26
インド ナarendra・モディ首相歓迎昼食会を開催	25
外国人留学生支援へのご協力をお願い	25

「バイリンガル国家という未来」

グローバル人材の必要性を問われて久しいが、果たして日本にどれだけのグローバル人材が育っているだろうか？ 確かに英語を話す人は増えた。英語を公用語にしている企業もある。しかし、たとえ英語を話すことができても、ドメスティックな文化で育った人はグローバルでは戦えない。今の日本にグローバル人材が十分に育っているとは言えない。

自社は近年、海外企業の買収を積極的に行い、事業のグローバル化を通して成長しようとしている。自社にとっても、また海外戦略を展開する多くの企業にとっても、無論、課題はグローバル人材の不足だ。しかし私は、人材不足ではなく、グローバルな文化が日本企業に根付いていないことこそが問題であると思っている。いや、世界はどんどんグローバル化していくのに、日本社会だけが立ち止まっているようにさえ思える。

日本は、30年後の未来を大きく切り開くために、今こそ社会文化そのものを変えるビジョンを打ち出すべきだと思う。例えば、「30年後のバイリンガル国家」構想を打ち立ててはどうだろうか。実現すれば、30年後の日本はどのような未来に変わることができるだろう？ 30歳以下の全国民が生まれながらにして日本語と英語のネイティブになり、他国と日本の考え方が融合された新しい文化が出来上がっている。グローバルに開かれた日本の魅力はさらに増し、海外から移民も入り国際結婚も増えるかもしれない。日本がDiversifyし、日本人は活力と想像力にあふれた国民になっているだろう。そして、その30代が60代になる時、完全なバイリンガル国家が出来上がる。世界で活躍できる強い日本人と強い国家が出来上がる。国際機関へも指導的な立場を取れる人材が次々と輩出されていくに違いない。

私の好きな言葉にダーウィンの言葉がある。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」。日本人はこれまでさまざまな環境の変化に対応して、あらゆる困難を克服してきた。日本人は環境の変化に順応できる素晴らしい国民である。しかし、私は今、大きな危機感を抱く。このままの延長で30年後に私たちはSurviveしているだろうか？ 日本人が世界の頂点に立てるような未来を見据えた国家ビジョンを、今こそ打ち立てる時なのではないか。政府の英断に期待する。

今月の表紙：世界の文様シリーズ

【トルコノ陶器の絵付け】

異国情緒に満ちたトルコの文様です。これはよく見られる花柄のパターンで、どこかアンニュイな雰囲気のある不思議な造形です。